



## 皆様とともに 住みよい村に

占冠村長

中村 博

村民の皆様、新年明けましておめでとうございます。穏やかで素晴らしい新春を迎えられ心からお慶び申し上げます。

昨年の8月25日に行われた占冠村長選挙に際しましては、村民各位のご支援をいただき無投票当選の栄に浴することができました。

「すべては村びとのために」村びとは村びとのために私の村政執行の理念が支持され、引き続き信頼が寄せられたと思うと、舵取り役としてその重責に身の引き締まる思いであります。

占冠村のめざすべき方向性を示すものに「占冠村総合計画」があります。この計画の期間は、平成21年度から平成30年度の10年間ですが、急速に進む少子高齢化や高速自動車道の開通、3・11東日本大震災など社会情勢の変化にもない一部の見直しを行いま

した。

その審議を行う委員会では、平成28年度中に人口が1,000人を切るという予測から、1,000人を下回らないような施策や至急取り組むべき事項の意見が多く出されました。その結果、三大目標として「高齢者福祉サービス」の充実、「森林資源を保全・育成・活用する林業関係事業の振興」「木質バイオマス等の地域資源を活用した新エネルギーの利用」が提案されました。現在、喫緊の課題である事案について取り組んでいる最中です。

高齢者福祉では、在宅介護をより充実するために小規模多機能型居宅介護施設開設に向けて準備を進めています。また、新エネルギー活用では、森林資源の地産地消をめざすため林地残材を利用することにいたしました。早速、湯の沢温泉に薪(まき)ボイラー

を導入したところであります。

集落対策では、占冠村の人口減少に伴い、「限界集落」に限りなく近づいているいくつかの集落へは、その維持・活性化を目的に「占冠ふるさと活性化推進委員会」を設置し、取り組みを進めております。

特に高齢化が顕著な双珠別地区と占冠地区に重点を置き、北海学園大学のご協力を得て集落点検を行なってまいりました。並行して、地区の皆様が自分たちが暮らす地域についてともに考える『地域の未来を語る会』を双珠別占冠、中央の3地区で開催しています。

この間の皆様の思いや意見などをまとめ、これからの集落に関する方針を今年度中に策定する運びとなっております。本年も地域の方々と熟議を重ねながら集落の方向性を見いだし、協働の地域づくり

を進めてまいります。

◆ また「占冠村総合計画」の基本計画で示していますように、

▽安心して暮らすことのできるむらづくり、

▽地域の特性を生かして元気のあるむらづくり、

▽安全に暮らせるむらづくり、

▽人の輪があるむらづくり、

▽子供が健やかに育つむらづくり、

▽次代へ引継げるむらづくり  
といった村政の重点事項についても引き続き取り組んでまいります。

◆ このような施策を進め、実りのあるものにするにはこれまで以上に村民の皆様にも村政に参画していただきたいです。

◆ 難しく考えないでいただきたいのですが、あくまでもそれぞれの立場でできる範囲で、たとえば、「会議や会合などで自分の考えを述べてみる」「ボランティア活動に参加してみる」「村主催や地域など各種団体の事業や行事に足を運んでみる」このようなことを第一歩として一緒に村づくりをしていく仕組みを作りたい

と考えております。

◆ 大変厳しかった陸の孤島の時代は過ぎました。

◆ これからは村110年の歴史に学び、地方公共団体の基本的な役割であります住民福祉の増進に力を注ぎ、村民の方々が「占冠村に住んで良かった」「いつまでも住んでいたい」と思っていただけける郷土をめざしてまいります。

◆ 午年を迎え、目標に向かって一直線に進む年になろうと思いますが、村民各位におかれましては、本年も希望に満ちあふれた素晴らしい年でありますようお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。



## 年頭に当たって

占冠村議会議長

相川繁治



◆ 新年あけましておめでとうございます。

◆ 村民の皆様と共に新春を迎えることができましたことを、大変うれしく思います。

◆ 村民の皆さまにおかれましては、日頃、議会の活動ならびに運営に対し、暖かいご支援とご協力を賜り、衷心より感謝を申し上げます。

◆ 昨年を振り返りますと、日本国内ならず世界中で、温暖化の影響が、地球規模での災害が、私たちの予想をはるかに超える被害をもたらし、多くの人命を奪い、その強大さを見せつけています。

◆ 本村においては、昭和37年の大水害から52年になります。が、いつまたあのような被害に遭遇するかわかりません。占冠中学校敷地内に災害時の備品倉庫が作られました。今後、避難路等の整備を万全にすべく対策が必要です。

◆ 一方村内では、懸案事項であります二二ウキャンプ場の運営が再開され、今後多くの利用が期待されています。

◆ さらに、初めての試みとして湯の沢温泉の薪ボイラー使用など、今後、村の財産である森林資源の活用による再生可能エネルギーの導入促進を図る必要があります。

◆ 旭川十勝道路の計画路線から調査路線への早期昇格を、村を挙げ各関係機関への働きかけを行い、安全に通行できる金山峠の切り替え等を強く要請してまいります。

◆ 高齢者福祉の向上を図るべく平成24年度から取り組んでまいりました小規模多機能型居宅介護施設について、その見通しが徐々に見えてまいりました。

◆ しかし、これができるまでにはなく、今後さらに充実したものにしていくことが必要と思えます。

◆ 今年も第5回目の住民と議員の懇談会を2班に分け4か所で行いました。活発なご意見をいただき今後の議会活動に生かしていきたいと考えております。

◆ 10月25日には、議員個々のスキルアップのため、北海道町村議会事務局に出向き、地方自治についての研修を受けてまいりました。これからの活動の参考にしたいと考えています。

◆ 新年を迎え、村民皆様と共に住みよい村となるよう、議員一同力を合わせ努めてまいります。

◆ 今後とも議会活動に対し、ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆ 平成26年が皆様にとって希望に満ちた輝かしい一年でありますことを心から願ひ、新年のごあいさつといたします。